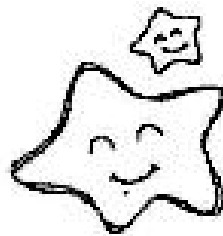


QSK

にぬふあぶし

No. 311 <sup>ね</sup>子の方向の星(北極星)



## 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えることができました慶びを共に分かち合いたいと思います。旧年中は、会員、支援者、事業所利用者、その他の多くの関係の皆様へ家族会活動への多大なご支援、ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

2022年は、沖縄が再び日本の一県となってから50年を迎え、記念式典を始めとする様々な行事が県内各地で行われました。どの行事でも準備や運営に携わった方々の熱意が感じられ、参加者も性別や年齢や出身地や障がいの有無等を問わず多くの参加者があり、沖縄の持つ底力のようなものが伝わったのではないかと感動の連続でした。

沖福連としてもいくつかの行事に参加し、運営する各事業所でも大きな成果がありました。家族会活動としては、家族による家族学習会、シンポジウム開催、映画「夜明け前のうた」上映会、さらにはヤンバル(沖縄島北部)にただ一か所現存する「私宅監置小屋」の保存等について沖縄県に要請しました。

コロナ禍でもみんなねっと全国大会(広島県)や九州・沖縄ブロック大会(大分県)、そして沖縄県大会も久しぶりとは言え対面や画面を通してでも開催できたことは大きな喜びでした。

新年も数々の活動が予定されております。健康にご留意いただき、引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2023年1月1日

公益社団法人沖縄県精神保健福祉会 会長 山田圭吾



心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスター

## 沖縄から最優秀賞(内閣総理大臣表彰)!

毎年12月3日～12月9日までの1週間は「障害者週間」です。

その一環として行なわれている、『心の輪を広げる体験作文』と『障害者週間のポスター』の全国募集。今年、なんと作文とポスターの両部門で、沖縄県からの作品が見事、最優秀賞に選ばれています! おめでとうございます!

一般区分で作文に応募した銘苅さんは現在、就労支援事業所『てるしのワークセンター』を利用中。『苦しくても、苦しくても』は、学生時代に強迫性障害の診断を受けた銘苅さんの体験記です。作品は、県内版と全国版の両方の作品集に収録されているほか、内閣府のホームページからも読むことができます。

12月5日には東京都有明で表彰式があつて、銘苅さんも出席してきました。式典には天皇皇后両陛下もご臨席され、天皇陛下からは最優秀賞の受賞者それぞれに、直接のお声かけがあつたということです。

式典の様子や、参加して感じたことなどを、帰ってきた銘苅さんから聞きました。

「表彰式会場は厳重な警備で、異様な緊張感に包まれていました。あまりの格式の高さに、自分がこの場において大丈夫なのかと不安になつたけれど、スタッフの一人一人が丁寧に接遇してくれたのでよかったです。

天皇陛下との会話の内容は緊張してよく覚えていないけれど、陛下の温かいお言葉、こちらの話に最後まで耳を傾けるお姿など、しっかり理解しようとしてくださっている気持ちが伝わってきて、とてもお話しやすかったです。また、皇后陛下・雅子様のお顔が印象的で、式典中に話を聞きながら目元を潤ませたように見えたことがいちばん記憶に残っています。雅子様もいろいろな経験をされてきている方なので、そのときに、共感の想いを持たれたのかなと想像しました。

式典はリハーサルから始まって、休憩なし。がっつり疲れたけれど、特にやらかしたりしないで無事に終わったのでほっとしています」



この表彰式のことも貴重な体験談ですが、銘苅さんの作品に綴られていることも、経験した当事者だからこそ伝えることのできる迫真性に富んでいます。銘苅さんには表現したり、発信したりすることをこれからもぜひ続けていってほしいなと思いました。

今年の合同作品も最優秀賞いただきました☆ Posted by.ふれあいプラザ宮古

## 「あ〇のマスク」 de 『めぐリングドレス』

毎年、障害者週間に合わせて開催される宮古島市文化作品展。

ふれあいプラザ宮古では利用者みんなが一手間かけて作り上げる合同作品に力を注いでおります。今年の素材は・皆さん記憶にございますでしょうか。

【2年前大量に余り保管にも困っていた あ〇のマスク500枚】

これを一枚一枚糸を切って解体、60cm×27cmのガーゼ布として広げます。

「老眼で見えないよ」という方は糸くずの処理を担当、洋裁経験のある方にはミシンの作業を、アクセント用の染色、耳紐を編む、など様々な作業工程を分担。メインは大量のプリーツ生地を作成！ 約350枚のプリーツでスカート部分の作成です。ひたすら縫う・縫う・縫う・ふだん裁縫しない男子も縫う。縫う人のために針の糸通しを担当してくれる方も登場。



おかげで終盤の縫い付けは急ピッチで進み、見事なウェディングドレスが完成いたしました。作品名は「あ〇ノマスクが巡りめぐってウェディングドレスに・・」「めぐり・・ドレス」「めぐリングドレス！！」(利用者Mさん&スタッフの叫び)

めでたく満場一致で決定！まさにみんなで作り上げた作品となりました。

今年もありがとう！ プラザのオールスターは永久に不滅です！



### 令和4年度障害者週間文化作品展

★標語部門 最優秀賞：まもちゃん

『ピトウアタラッサー ドウアタラッサー』

★手芸部門 最優秀賞：プラザオールスターズ

『めぐリングドレス』

★写真部門 優秀賞：Hさん

『池間島の大橋の美しいきれいな海のふうけい』

## 国連・元特別報告者

(※「特別報告者」とは、国連の人権理事会によって  
任命された独立した専門家のこと。)

# ダニウス・プラス 来沖シンポジウム

～沖縄の精神保健のこれから、新しいケアの在り方を考える～



### ◆ シンポジスト ダニウス・プラス

リトアニア出身の医師で、人権活動家。  
リトアニア精神医学会初代会長。  
精神保健と子どもの健康に関する国際的エキスパート。  
2007年から2011年まで、国連の子どもの権利委員会の  
メンバー。2014年から2020年まで、国連「健康への権利」  
に関する特別報告者。リトアニアの2つの非政府組織、精神  
医学に関するグローバルイニシアティブと人権モニタリング研  
究所の理事長。東日本大震災・東電福島第一原発事故後の除  
染作業員の健康問題について日本政府に情報を求めるなど、  
日本との関わりもある。約40年、子ども・精神障害者など、脆  
弱な状況にある人びとの”権利”に焦点を当て、公衆衛生政策  
や公的サービスを変革するプロセスに積極的に関わってきた。  
リトアニアは、大国ロシアとの関係で翻弄されてきた小国  
でもあり、沖縄に共感性を感じてくださっている。

### ◆ その他、登壇予定者

- ・池原 毅和  
第二東京弁護士会所属。精神保健分野の法制度に関する第一人者。
- ・親川 志奈子  
沖縄大学非常勤講師。琉球民族独立総合研究学会共同代表。
- ・兼濱 克弥  
宜野湾市地域活動支援センター「はびわん」施設長。
- ・なかむら なつみ  
解離性障害をもつ、当事者。入院の際に身体拘束を受けた経験がある。



## 2023年1月21日(土)

【時間】14:15～17:30 (開場 13:45)

【場所】教育福祉会館ホール 【参加費】800円  
(那覇市古島1丁目14-6)

### ◎編集後記◎

絵画でも手芸でも作文でも音楽でも  
なんにしてもですが、人にとって物づ  
くりの意味とはなんなのでしょう。心に  
イメージしたものが、そのイメージのま  
まに達成できたとき、さらにはイメー  
ジにも増して上手に出来たときのあの  
充足される瞬間は、まさに幸福と呼ぶ  
に相応しいもの。毎月ごとの、この『に  
ぬふあぶし』の積み重ねもまた。(増山)

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会  
会長 山田 圭吾

〒901-1104

沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1

電話 098-889-4011 FAX 098-888-5655

E-mail [terushino@castle.ocn.ne.jp](mailto:terushino@castle.ocn.ne.jp)

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒812-0068

福岡市東区社領1丁目12番4号

電話 092-753-9722 FAX 092-753-9723

定価：10円(会費に含まれる)